KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

洋学文庫
文庫8
C 267
3

遭厄日本紀事巻之三上

目次

箱館牢内の事

始て箱館の官府へ出る事

モール病患の事并日本人我国へ書を請求めし事

テイヤナ船へ送り置ける我国の荷物到来の事

再度箱館の官府へ呼出さる事

41F 7303

遣尼日本紀事卷之三上

杉田豫　譯
青地盈　澤
高橋景保　校

箱館牢内の事

予牢内にて氣絶し暫くして已に聞く窓の戸を見しに外に人あり手招して近くに来りと云予窓を寄りしに格子の間より小き餅二ツを與へ又手招して人の口を指さし早く食せよ食せしに味美なり罪を問はんと云予此餅を少しも食せざるに制せ法なれども

41ヲ 7903

快とのゝさうしらふて其篤き志を感して喫して尊ゝ
謝とう彼人此を受て去る拾ゝ金を又例のとゝきと
ゝを無人と為して去れゝ思ふに其容貌甚ゝ賤のもの
なれども此男を係る異國人を怪ゝて事訳ゝれも
已も深と歎ゝふ其樂を犯しして予を慰めんとゝゝ
志実に心を感ゝ感ゝふ感ゝう
程なゝ食物を盛る膳を持来ゝるとゝ
拾ゝ入ゝまゝ立ゝ拾ゝ食を以呉ゝ
膳をうけ或を後ゝ此日人事をのゝ工夫をゝ
造り方を視ゝふ高さ八尺許廣さ六尺四方ふしてそき

材木を以拾ゝとゝ拾ゝ二重程ゝ入口戸あゝ
錠をおろして外塩との出入を止めゝ牢舎の屋ゝ
二つあゝ何れも大き木を以て拾ゝ形ゝ内ゝ紙すて
此日ゝ隙なゝとたて開閉ゝ
二尺許ゝ隔てゝ
此ゝを囲める外塩を越して山野曠原及津港の一場
日本地の海岸まても又ゝ
あゝ路厠あゝ
有候ゝとなゝゝるゝあゝ
あゝ甚小ゝ借ゝ

ゝ中央ゝ深き穴あゝ
又二間の本を造る枕子
此外隅ゝ四枝設ける

[illegible]

はりゝ宇内の板の戸見てゝふ一間の小刀たゝ[illegible]
[illegible]て容易ゝ面の板の戸破り抜て出る[illegible]
隙よりまきれて外様に場をもの越さゝ[illegible]
み小刀のまゝや雅の手ゝ無刀もん[illegible]逃れ出る
ゝも手ゝ人して何日ゝ住ん者ゝ幸ゝ海辺ゝ[illegible]小舟成
はゝ乗る掉ゝ韃靼の地ゝ着ゝ[illegible]踏る国尼の
徒ゝ出ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

消失ゝ[illegible]
夜ゝ入ゝ遅ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
新ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
抜ゝて置ゝ又[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
らゝて廻る

姫路の[illegible]人の者ゝ唯本ゝと呼ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
一小行の本ゝと三ツ井合ゝて時[illegible]と出ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
廻ゝて[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
暁の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

咬ハモールと シカヨフとの強れ死を免るゝ能はざるを知りて心胸しばらくくくり手ハとあれ
国尼の使ひ国一宇内あれば互に強ひあひ心底の費
国を捨てかりんと思ひあてゝとの事よ心胸しばらき又
手の間縛を彼手よ失ひ一国よ逃走るべき力もあんと
少しゝ心よ楽みとなりて右西人の話ゝモールの考よ亜尔
罕尼尔（カンゲル）（トウイナ河よ濱たる邑なり寒も良き）の事成ゝとシカヨフ
強ひ来たり彼手よ手り兼たる宮を知りて驚
拒ゝ思ひとも若しゝ考を揚るは何ゝとの考よ為成り
出さんとゝ考を思ひて黙ゝ有りて歩年亜よ宇内

番人ホ起ゝまるの弥を知りて又手よ影洗ひ口嗽をんと
て水と湯と成ゝ持ゝ来り手新洗ひ嗽ゝ宮を入口を開き
置ゝの事終りれば来る生徒を開ゝ一ゝ来て多仮を
持ゝ来る生徒手まゝ食氣ゝ入れを長を食をきて
書頂よりて宇の沈後とゝ海ゝき異人撫亦通事と
医師と並ゝアレキセイと成ゝ使ひ来れり

後の伊ゝ蛇茅通事を上原徳二郎と云歳ゝ五十
六斗りゝ人医ゝ東江と云ゝ

彼ゝ拾ゝの外とゝ云ゝ事ゝ若ゝ不快ゝ成
此医ゝ使ゝ彼ゝ長ゝ伝ゝ安ゝ成間ゝ

格前事終り道すがらこれを聞くと雖も後篇に
譬る予窮るアレキセイの語をそへレフニコフ
及ワシリエフと同居し一アレキセイを予多く物語り
し家の恵を忘れず甚時〳〵旦暮もきく事きく成
時けるを又中て書食成れ事多〳〵しかも食を
さゝもされず入口の戸を開き何の家も置
置出して戸を閉々〳〵物を乞て予を初め食家
なれば是を食せざるまゝ
落葉の頃又年の頃役無二官とアレキセイと成使ひ
りて予を云ふは此地の長官你の徒無の修〳〵背間る
なん間て水夫の間你ぬる者成人偽るなれしめん
正名成出奔し予思ふ人俱なれ難なれて
人ぬるもんハモールとヘレフニコウとを思もんなん
とて唯語るもしと〳〵と笑て必人を名成出し
是長女の言ありと称ふ〳〵然ふ順序を文代
郡〳〵も角〳〵先マカロフを使ひしと云ふ昂的マカロフ
を連事なりて予アレキセイを以て事人を云はしめ
マカロフ予アウとモールの方を置き
人目をとゝ〳〵を事なれ成れて云ふ原す
日本人の家を出事なるホモールの方へ出置成

許さるべきやうに於て無しと予はアレキセイを呼寄せ
役人を牢の際役人と思ひしに此度アレキセイの作なる
此人を此地の主なる次て安き役人なるべし成時に
時々予アレセイを以て家を出つまてうかゝ禁獄さる
中と問しに答へて何事も因果を以て免されるを本望とも
思ひしもと云へ予又云問答に曰く有りと
問しに答へて我等此のあさ分の上なる人元て日本人の
一言を句も心を留除しに来りしに遠く来るなれ者
彼役人程なく因果を以て云は知て無しと云
吉尚吉と云しに生言の事なる成家に帰
出る樂に成生涯
此事人等出来るなるよマカロウの成顧しに甚驚ける
体にて予の影を見て世の者面白しと山水画なるふ
又云家に流系ふ〳〵へレフニコフとワシリエフアレキセイ等の
形を予の此者なれ成極楽なりと云へ予此者の作なる
て因花の陸の形を示成大なる形状にて造る絵画にて
入日を知て出の出て日出て真よくを出と
時て彩るけり
日本役人の言とマカロウの作と時て賛同稍物一致彼
る者にて賞美なり〳〵食るなる者なり彼此の

食物を進ずる事

飯菜の食物は菜の葉にて食物なり

大抵飯と大根なり葛と入る汁と煮豆と漬物の薑蔕二切と与えしもあり又稗よりの粉と薯蕷と餅と成糊のごとくふきこぼしたる大根汁の代に給汁と無つ事もあり凡年貢米四五十日の内は星鱠の事なれば成塩酒にて煮て呂に成無つ毎日三度の食なれば夕方は豆腐七切あり飯と共に湯なり

又形ばかり成入きる麁菓を出せり

おのれ共は九き枕に成おきたれば出せり

寒中のごとくなるの形

始て箱館の官府に出る事

第八月十日晴の形通事熊三郎来りて出る此の七郎

仰せられ命ぜんと思ひ居て貴殿方へ二人と云ひ已は其時出るもりて手まと字と字と出して使成

傳ひ正鹿の陽成皆本人二人毎に執て乗せ二列に並ませ一先

陣屋守護まもり役人美濃国にて彼方の用を成るきーむ

に寄甚七郎ーー相中村と云ひ個て後出二人の名簿の先人

郎の方の羽織を着ーー多き大成指の先よりある茶針の時

斧の柄をとる（保拙よ拾ヲ）を持て先ッ次に帯刀成帯をする
東部の出卒三人其後に弓傷の家の同心二人後に又二人有て
弓を持る傳の陽城持て弓を持るモールヘレフニコフ外及
アレキセイ等同様にして列をなしおりをむ最後に
又東部の出卒三人海を押えて
左の方に列して其もも街を舞る出張の
家毎に見物の人多く群れて弓矢鉄砲高石
を事成為れて此街を通て左の方にあって山あり
堤の柵をなして国ある家舎あり此門は入て庭に通ずれば門内に甚
粗造なる車蓋の鋼の大砲を載て此所にとりあつ市民成
るき又多に庭に通ずれば家の同心数人出て皆弓鉄砲を備へ
通りの上に堂をなす家を庭に設て蓮成
家ひしめる街路に樂三人をかくして水をアレキセイとなる
ものを遣をなして堂をむ此をもて軽く行ん家の前
にて煙草をもて上家の煙を成添へ佳家の葉を砕き出
をり第後の者をして煙草成嗅せれば皆嗅あり
者を付を備れる食をなすをり
皆をして家の煙を成嗅あり成時して弓并モール
をも護をる者時に煙を吸ひて拭る勢しる
嗅をしめ仕方人の外を上に乗をしをり

此家ある行すて良久しかりしかハ五六種の物語をする成
ほうらへレフニコフのある家をマカロフの作せしめ給ふと
又モールのある家を予ら未だ未だ家をいまだ造り終ハ
居ども見へ甚だ美しかりき
此所より九丈程隔て行ふ信ある家ありて甲冑コウサリンと
唱へり

日本人ある予ら名城コウサリンと呼んでいふ
即ち予等案内する一人の同心予を法れ大きなる門城るもきあり
中を廊下とやうに一度を舎る入れハ又一人の同心出来て予等
をとなりて此所をまハ天井もあり高山石成あり
殆とシキウル（按ずるに小石の義なり蓋し白砂欧名）ある仙ありて二方ハ地より三尺程もあり
高きて中央ハ巧に造りたる馬を乗せ幅員廣さ十尋
ありて窓二ツ付れも本の格子ありて障子もなくして硝子成通き
也紙なそ張り此所の上方の壁の高さ四尺程のあるを械（テカセ）
鉄鎖捕縛に外種々刑罰の用成設けたり予始め此所を
見るに問ありと思へり同尺の陸も居ることを思ひつめ
中央成ける中央に長なる中を設け張を記級二人ある
紙と硯筆と成置て此所の左方に次なる次なる
次を後人一人ツ各中央に出ハ天井成張て無として列坐

と云ひて日本風の黒き衣服して腰に長刀を帯し
左手に長き竹を持ちて黒けり衣服の上に
守護の者三人ありて通事の無二ありて衣の上に
はきを掛けたり
予を見て驚き思ひを右の上に吐せしめんとせしを
何ぞ殺害し給ふ予を見て驚きて
モールも同じ此予を見て驚き又ヘレフニコフ
モールの傷を見て驚きて人々入りて皆予を
傷つけ給へ是はアレキセイ走てヘレフニコフを傷ふ
所なり

都て日本人は左の方に上座にして右の方に下座とす
用て又ふ何所にても彼に日本人に
向て像を彫て手先を上げたと云
右の如く時宜にて通事歩行する中にて上座に
居る此
予は此事を云ふ彼に向て礼をは彼も礼
礼を低て答礼し儒者にて此者と出し予に向て和む
先予の官位姓名を問て予答へは也記
彼三人にて逐て通ずと記せり
予の姓名問て答へアレキセイクリル記して汝の名を
何と云ふ尾と予に問て尾と云ふ彼に問て

終と云ふ可き外條義なれハ何の義なるを
解せざる時アレキセイ頭を振りて云へハ成
アレキセイとは〳〵所なれ共マッシミッツト云屋あと
平らかなる時を問ふるなり成時アレキセイ面翻
ハ毎に此類の事多れハ此を為ふ常にて成
費ひる事多きなり
次にモールベレフニコフ及び多くの同様の問を為して
正しきを知らざる故なり次にみすのの〳〵平すり此の川流れ出る
年歌毎の名只芳書子の有世を問ひ出国のシントベテルブ
ルグとの里数を問ふて初出る故日本人不審して

決出る名家あり不仕為る問〳〵船を出すを平と問〳〵
平らかにして出国を名乗れ共其国の事を為る者成と
みなを知申して見るの職業及び使令を為るの士卒の員
数を問ふて此を申す平甚窮迫せり為ふ彼船ふ士卒
の数を問〳〵平彼を嫌〳〵て其五等あり〳〵て了見
あり〳〵と平る者を大略を問ふ平士の雑問成
迎ふんと思ひ彼を示せ〳〵ハ礼言者マヨトル（地方三級の官名）ハタイロン
四等人（すり）ハ隊の長官成（地方の官名）と為〳〵カビテイン（地方の官名）ハ平コムバリニイ
平と一隊と為る士官者の名成
兵士を為ふ
思ひ〳〵日本人を知る為ふ能そは待〳〵の問を起〳〵

て鎖国政策をとるに至りしなり
番船の名に大きなる帆の有れども
せざるべき無数なりて毎年数度
に数隻宛を斬り捨て彼と
所の宗教に於て異なるものあり
物を宗教に拘ることなく
別数の物産にして宗教の同じきものなり又
次に船ありシントヘテルスフルクと出てより航海をし新政成
詳に問んとして番船カメリヤの代に俄羅斯国の学士
コロビニスカ著せる地図を取出して見せむ予此を能て

事の新説を示して彼に問しに予のよりケシリして
日本の役人に給ある地図詳に新説と記せり高き
何なるや中に日本人云に地図を示し若し
かことなく速に造ることあるべし只新説
を問えるのみ何なるや詳に
問て遠て記せり且通事
成問乳せり北日本の通事
アレキセイも通船に乗ることの上日本人の
問ひ甚面白なるを一事も多く成事せり
除くに出ずまく問ひあり
は再び出ひ出ひ

悔りて仇日思ひ居たりしと云て擲を退けしむ
其子又は退きしより長暮なりしまゝより窓へ悔り逢ける
人並勝しと思ひ何事も唐の業なる様にて西へ加へ流
会すなりしとそんで字を改めりけれハ世になりとて未学の
の注釈一具にまとめりたる其書を国中に与へて世の為にまる
其府に出したる所まで亭の宇外の唐とモールの字外の
唐との板の図なとを除きて一々字を看せるの古寄の古文
を撰へ亭とモールの書に直ちにあてる事を成けり能く其
亭か字を退け出んとせしものの今に至る能はれくり古に此
ぬしまゝりし亦亭モールに語り聞せ亭か伝にある

マカロフに命じて云ふなりと云けれハモールも又亭に云るに書を
其信にて云ふるニカヨフに云ふなりしして直に説法せし
ての教なれと云し事なりし其後にて其彼の第二の後の人
按ずるに直に云ふ
聞くに梁直に云ふ梁直に撰ほれるに許されなきよし
何の処にるべきんと思ふへしとはまゝり直に字内とり
撰修出るまでに成りし但し日本人吟して実り
ありて在りき撰のまゝ塩をそいもれ若し係羅刹鬼
を識る人の立所もせんとする我志を表すり係羅刹紀
の外その他の伝我云ふなし粋心深き日本人

あるべしとのぶきの外多人事成立てあり

モール病患の事 并日本人看護する事成法求

免了事

初め病氏発熱する者多く脳出血し五十八日成

強直となる再び脳出血するもあり

すべて日本人よりも医者と同じく成法

了毎朝夕寒冷を視回する後人事医者と面する成法

其ゆえ病人を治するやみ行て毎日の事なきが

中と同じく日本人の厚しく成用ゆるなり

又毎日五度の食物を無思するいつも

味噌蘿蔔汁あり モール病の法はるるもと脳

出血しかも醤油すべて飲して諸菜等根の部類成

投し時に乾もと飲ものとなり

と示したるなり只多く食せしめて食養法成用

日本の醫者は病者の食養法を成用ゆるなり

只多く食せしめといふ若し患者その命のよう部

多く食し多くんなるを医者は病の無

と形くん

一日モール日本人よりの用ひ食物の無思なる成称まして

ひのぶき食物よりは医者を病と称するもの 此の部論は

招しと云しかは彼第二の彼人大に喜ひ モールトア
問しに俄羅斯人にては病気の時に何を食するや医者
は何をか与ふるやと モールにて此時は常に鶏の羹を与ふ
と彼いふ事あるにて此者尋ねるや其法にて製し与へんと
いひしかは モール其製法を委しく語りけれは彼か是を
書記せしめ食し彼か好むにて飯しけるとて甘味
鶏の羹の事にて再ひ云出せる事にて食しあるに
至まての其事を大に喜し事なとの如し
此男にて 太田彦助 毎度薬を服 喫せし人にて或日来る
牛肉牛乳にて 俄羅斯人の好むものなれは無用なと

約せしか数日を経て此者申には皆快に至て約せし罷
候といへとも又或日薬を酒と飲しめて酔しに氷
来て歌舞せしめよ先年ニッリスマンか来りしとき
俄羅斯人の踊を見しに甚面白しと云り尋常にて
あす此の如き事の上にて此同し我か歌舞戯なる人中に
於いて至之日本人にてもかゝる事の上と云て詩歌
舞なとなし慰と申者にありしと云
毎日実窮を彼人に慰を定めてすまれ其国
の慰一目と陽河の[illegible]にして二度[illegible]
より[illegible]の[illegible]にて[illegible]の器械なと見物にて俄羅

到の名称を問ひ知らしめ少き辞書のめきものを作れり
人平生に能く問ふ所を知るものを一人ヘレブニコフ
卿宅に陪す此客は隣る地球を以ての如羅巴
人の作る地球図を倣ひて日本にて刻する地球図
を出す人陸と盛の監守の出産世紙面数多持来
来る俄羅斯文字の出版物を持参ふ
孤と問ふ尤も此を信ふ甚丁寧ふして出
世ふれば書一冊ふ高価にして
価を求ふ一冊に付一次に十柄
四ふ出ふ価ひ出ふ苦しき業なり モール少
ヘレブニコフ出陸に書籍善しふれば抜の者多かりき
モールを一人の出産の者に七十枚の紙を書きて
出版購求出る者に与へ多し利を得ると
日本人も尤も此奇を愛む此俗にて諸の実邪の
を集めて書籍を出版楽む彼出産より珍奇なりとして
秘蔵する出版者に出版を求
又時舟来とも出ふ
銅知及小刀の類なり
其間に官人等の書を適ふ出産ふ
あれば書しふれば出の諸を問ひ再ひ出ふヘレブニコフ

書をしむるなり又去のころ或時一官人ヒとりを大なる
紙に俄羅斯国の民書せしむるを三度あるをもて於又
既に出して待しうを予に出の薩
俄羅斯人因物を求ふ身を固ふして沙の國人
七人を捕へ罪人のめし因獄して世すめ月ごと
殺る殘忍の報あるを我歎うしたん
と書して無くれ彼去れ何とかあるを問し
加藤を俄羅斯の使の便船之業を為ふ
出して問をよまとこい秘蔵をしと
又長崎へレフニコフふふしてを待をえ
テイヤ十船各の書一置る報を長崎到来の事
第八月廿五日晴 去四月助多くの同船をもりけるて牢の
前を板をもて蓆をもて並れを
屋しみしく四人の男をもて予の事をしんと
ヘレフニコフの草袋をもと撫ひ丈夫世驚きうる弦と雲
動をもるめし予又て取りけるもはなの不自由
日本人のもよ入しや我りテイヤ十を奪ひ取れしや
テイヤ十日本地よ丈夫やと屋しを彼者この不ふを推

見て長をもの用をもと話をきしう言久しくあて予ら言と
同しく地図をいはをもをきて渡しを彼ふをもて

の不持ものしやと問て手をふるふテイヤヤ十のツナシリ枝
出帆の時よ舟まて此方の者共海岸まで送りに来るかんと
思ひあのてあ姫もしらん又テイヤヤ十倭語の如ハ我
おうの方のまのりを宝て我帝まの酔ゑ遊ばるまてと思ひ
ちのよ恐敬ひ
右京一枚まふ賞ゑ方成まのよ多くしとみ樂よ出さる
二三の衣服と本陣あ一枚まてふ出ハリコルトう篤きこと
まて為おうまもあ今と道てる時為一日本人を
思とい我国よ無さりしとも出ハ本国成
思ひそリコルトう実言ものとなもてり

手日本地よ来りしとなる以手の事共成日次の記よ書ル
んと思ひとも成ハ毒よ事鉄しよ不図思ひ出て了稿
言まふる所と方ハ一夫ハ義の事成抽ハ出成成
て印しとまてる之鉄鉄の和とりふき事と所ハ所ひて
事の言ハ法一有一事の記と一顔まきの書き事
と神て法て不出よ出ハ一事の記と一みを長事一ハも
書ハもまて只ハ一と思ふる方ハ方ハこの縁
の事成以言ハしとまて出ハ書ハ方
世日人の出卒有て常よモールハ出て西年ヒまや
ハ一ハ世お鉄よ出ハ一と考ハ

たまへ御して為久し此者の在と成ゝし如何となれは
第一まては日本人とり衣類の卧具に至とりて錦のつる
薩府を遣し立ゝり且は籏幣に携へ衣無き者に施し
第二には衣類の外に牢ふみ入て浪藉る族を捕の
因圍に新に数々の守舎を定め且又牢内の事勢
をも改定せしむる事多し是に依て見れは為久し
く此者に恵ある事無し

再度箱鈸の官府に呼出さるゝ事

第八月廿八日再ひ光太夫の官府に呼出されたり
政次第に官府も先々と変る事なし官人罷出居
まし見是し人々之衣類卑を能て此者の内とり
出て官に依き騰御とり書札を出し是を着ある称来の
各々を屋ひ通事に命し云ましむるに先る係来らる
條て於ての事れる主趣に為審らかに問ひ紅し無しと
なれは衣々問ふに見て脇置て事なし且に定べし
と予め是て衣類日本人々に第し如しも修て飾る事形く
何にても置直に云より他なしと
於前の事れと云るクリル諸島をも總宰とる官
中して欧羅巴までコウフルテウルと云者に同し日本人
是成オブニヤウ又はブニヤウと称し

世の聞えるを大抵先づと問ふてるあれども或る事の
順序を変へ一或る二三事を略ふ一事成間ふ只あり
あれとて了解をふ甚容易なるきを問ふて敷設
して格美を賜あり仮を用者しきをのたのめ一
一レサノフ日本を侮ふ一ふ何をのよ紀しや
一彼を何をよう倫理的あるよ侮ふしや
一何の故にレトペテルスブルクよ着をや
一俄羅斯帝彼得大王所置セしや
一彼日本の事を何と謂ふやや
一日本の属地を所セ一二艘の船を何人の用る
ぬるやや
一何あるよ所をとあをセ一やや
一何あるよ家作形及び奪ひ取る外のふをは
徒拂ひしやや
一甘藷掘紀る日本人をとの用セしや
一奪ひ紀一日本の武器船をめ用をしや
一日本を強ふる者を倫理的の法有をを用
為ふよ紀ひしやや
予を倫ふ者ふ者を力ふ一
一レサノフ日本分首摸海船加よ侮ふ又亜墨利加は

商船よりきたるオランダ人ヨリ聞ルトペテルスブルクヨリ
ゆんとをくる迄ハカラスノヤリスリ（鳥銃ヨリ　エーセイスリ所轉の意ヨリ　エニセイ河）
ヨリ陸ヲ通ル

一レサノフヨリ日本ノ不法成甚シ悪シキ事ヲ述ベシ
家ヲ家ヲ焼ハ云ヲ言ヲ同ジヤウニ
一日本ノ属地ヲ取ル者ハ名ヲ公ノ船ヲ名ヲ公ノ船ヲ
初ヲ公ノ船ヲ出ス者ヲ名ヲ公ノ船ヲ
一ヲ初ヲ出ス者ヲ名ヲ公ノ船ヲ出テ悪ヲ為ス
ヲ日本ノ船ヲ捕ヲ成ヲ利ヲ取ル者ヲ
他ヲ一ヲ以ヲ日本ヲ侵ス者ヲ
事ヲ為ス者ヲ

事ヲ為ス者ハ日本人ノ船ヲ捕ヲ
為ス事ヲ為ス者ヲ思ヒ計リテ考ヘ事ヲ為ス
露西亞ヲ罪ヲ為ス事ヲ為ス者ヲ思ヒ
一家作ノ船ヲ成ス捕ヒ捕ヒ彼ヲ暴虐ノヤウニ
一女捕ヒ取ル二人ノ日本人ヲ
山ヲ為ス成ス
一日本ヲ奪ヒ取ル不ル
為ス為ノ為ヲ為ス
為ス為ヲ為ス
一彼ヲ捕ヒ捕ヒ者ヲ捕ヒ

其後審尋ねてみるに死亡せり

さて日本人彼邦にて一番の長崎にて放ホーシトフ及び
タイトフとあるは何れも体そこなひたる者
ニコラノサシトレアツ及びカウリロイロノツと称する者と同人
なりやと予彼に実名を問ひたるに知らざるよし答へ
きゆゑホーシトフは捕られしにて人の者にして長崎生れ
なりと云へり彼の姓も明らかなるを知らざる由
いふのみ予もホーシトフ等事詳に知りたれども
只ホーシトフ及びタイトフと云ふ名のみ成知るとなり
八彼地に有名なるのみ然るとして日本人なるよ

能て稍々の間を起さしめざんとなり彼れとも果て
予只彼ホーシトフ等に成ふのみなれば事を素性を
知らんとなるに日本人なる事を信ずるに至りて
ホーシトフとは同一人なるべしと思ふる様なるあり
き

又ホーシトフ已に日本を離れ又オホーツカ
（保越ヶ地ハムシヤツカの浜なり）に移りて彼地の官員となり然もなく
剣に再び能く知り来りしなるの事なるべしと予
思へどもこれなるのみ事なるべしとも予案ずるに
彼ら舟に共なる成程なるの為極め難加なる有り

陰しあるのみにて彼が属する所は官命なりと語り
来りしに何もなく彼が思ふ所も出来ず私欲なる所有しと
日本人異なきも出来て当然の事にしてホーシトフの船と共に
葛摸察加に一所あるよりて中にも有るの事ありしや不知居
にあらそひるにあるもなしやなと問ひ出すより魯西亜の
帝都よりペテルハウルスの港までの路程をも問ひましし
亦其日本海濱に来れる所と彼賊船ホーシトフの事なれる
時勢をと尋ねし穿鑿して深考し又一日あまり余あり
レサノフかシントペテルスブルクに帰り彼が日本書状の如なき
とあらは出帆もしける事を考へたり又何なる

我国よりは遠く隔たる航海をなすや如何なる船の装ひなるや去年
ハ蝦夷大砲を以て蝦夷の備へあるやなどと問ひ同じ様なる事の問
有て遂に答ふる能はず不堪にて其中にも蝦夷久しく大洋に
あらずて港なき所なれば戦ひ出来ることを求むる為に海濱に入るや何
なる様魯西亜人なるは廣き所なる船を造りて大洋をも航海するや
何故に大砲をも如何に此の戦艦をも備ふるや何故に從来ハシントペテルスブルク
の海濱に治りて葛摸察加に寄りして大洋中に戦船をなすやなど
始まるに我国の航海は只主意成るを問ふ定めんと待ふ
なるにも云ふ事なし我国を害する事も有る海濱を指すにも
るにあらずと云ひて彼等の熱意も出来さんとする成丈なる事に只葛摸

沙那加に二三ヶ月ありて行しと第一也
魯西亜の旅途の有様は首府都加より オホーツカ
まてオホーツカよりイルコーツカまてイルコーツカより
シントペテルスブルクまての路程を記し其余の国まて
思ひに魯西亜よりシントペテルスブルクを出帆して所々に
レサノフ日本より彼方の海岸を経し由を以て成詳に
都んと記されさる事の所々を成出せしまてレサノフ書は日本
より中りて帰りし船はシントペテルスブルクの都に帰りしとき
其船にて海をも首府都加に止りおゐて他の船にて
亜墨利加に行しと聞しか奈加申しことヽアへ見り

予竊に考ふるに日本人の心甚しく惑へることあり
とる事あるとなれハホーシトフの日本紀にて我の好
としてハ俄羅斯国民は南蛮人欧羅巴洲の事
知らさる事と思へるにあらし是其自国の様子小にして
他邦と離れて在る故に総て他邦の人に是を渡し成
侵さは日本国境を拘ふ一大事として子孫に至るまて
在る事を伝へさせしより起りて彼ホーシトフの日本紀
読れたと探索し人民を俘虜とせしるもとは魯西亜より
詳に検索されさしと思へるか故また其の用に第一なる
に其事ハ能て小別に残し端ふ詞なき成不快と云ふる

この所日本色彩の僅二三の村落より出ずるのみ
掠奪やゝ小事の事ゝ政罪色の人詳より聞かるる所き
所やや人口多く所々に紙羅斯古家の立て
出でるるものあるとなり白人の白ゝ明るく美しく日本人
三ヶ必ずとなりて殺して殺さるるもの少し
実と思ひて殺すもあり殺さるもあり
殺すに当りて日本人は精力気根強くして彼と同じ
先ずに成ニて殺して通るふ設き使ひ通て兵成
殺て兵成者ゝ多し家ふ所を通ふ所を
多しみの此下宮ふる雷にて毎ゝ事に宮ふ
時を奪ふ小しも仏教を信ずあれば此宮の中に
のみを立て百ゝ神の祭を何ものや海上の風にて
彼の風なるものや船を出ずるや定ふ所あり
宮ゝ兵ふ多て兵事に於て多ふ者も形ゝ大抵船
の指揮者と云ふ彼方ふ者あり
京都の御方ふ思ひ
此日本義ふ所にて官府ふ出て
使ふ官ふ者ふ鯨と出ず食物ふ日本の
酒一樽ふ飲ふ又酒ふ成嘗ふ成飲ふ
兵ふ日本にて婦ふ人ふ

空白

遣厄日本紀事巻之三上畢

遣厄日本紀事巻之三下

目次

箱館の官府ならびにゴルトの書籍を看る事

ホーシトフらサガリン島ならびに偽作せる移牒并我国エトロフ及クナシリ小島に置ける銅板を看る事

クリル人の偽言の事

日本人小漂民我徒と交む事并彗星現る事

レーモノフ暴風に出会を得る事

第鶴と与て松前より到る事

遣厄日本紀事巻之三下

杉田豫　譯
青地盈　譯
高橋景保　校

箱館の官有てリコルトの書簡を看る事

第八月廿九日　城請人家の傍の家分より怪きる事ありのめし

角列ぬ〜長官命ずる能て慮事より書状の紙成ぬ〜〜

太田彦助と世ふ彦助出るを沙ておりの偽なる人る

海〜ヒ人の長成無ぞらるる海中れ之能ニ中長成抜き

長者の命ずる〜とて命ずる長きと後〜ぬ三下長きとてふ

テイヤナは勝りたる人にて能ある書籍を尊まして久しく武事を
我等が人の身の上なと思ひ此者をさへ只今なき將者あり
しかるに今あかりて天竜の有きの部なりと思へるは胸塞り
意欲なる亡め離して モールルは手をもとめて膝つき
て其の家の部にあて、患難家の此体をみて早く人は
威し尊める拵まて亡弁なる意氣をもし著もおりし寸
是をとらへしは其人家事を罰して隠し是非を為さき
將りたる事故めて慎むるしきも有しろしむなりし給
書翰の文に曰
上天悪をにくみて天罰の出候ましてこの世の人の

達せしめんと我等が跡を隨ふなるとの両公家の雅氏
殺さんと欲せしは忽ち鋭兵衆家の偶となりて
其の後に之を退けて是は抗して手柄ありて思を施
を計らすと欲して陥りしむ様に家氣死の小さくて陸
兩き辭し拵やかなるに人心の亡くて利を為て事きなる
あらば此國にて亡むるをとめて一計を設けて公等
手先し我等息とさり速なるオーツカに達て軍事に於
備を為し速に此家に達て公等武家を救ひ出し得し
義し此手に於きんには此海濱を去て我等が氏
并の為し蔭し早く公家なる此の道を成家を捨てる

事と存ぜられ候へ共
此事を度々人数の仕方に成候
事成候へ
千八百十一年第七月二日

ヘテル　リコルト
イルヤ　リコダコフ

条此事解せと雖とも信ずるに足る日本人通ずるとて此度
所々は平直の通常にあらず原文と改めん
乃ち之を作るべし故々甘新なるリコルトの新なる教
九州防禦の為めに日本人を教ゆる少数

日本の陸海軍共に先づ此を防ぐ為に陸人を
テイヤナが防ぐる兵隊の少なき故新銃のみを
有するとしてリコルトの日本の陸海を見入んとの
企を望む故にて兵隊を以て防ぐ
他の為に防ぐやあり人の考へ
使ずるとしてハ詳て係ること
日本地を所とする事あり
政府の為と信じ為を
其のごとくリコルトの主張成
して日本人に教ずるを成

オホーツカを防ぐ軍の
オホーツカを防ぐ

彼らは彼らを人中と宮ゝハ字為て彼此共
はなのる成係屋形船を
走る迅う走ん人と云ゝ
リコルトのよ爲のよりよ於てハ日本人ゝ間と起るる
あゝ止めまゝゝみの宮と呼ゝ一ゝ為るめゝ作す
混雜して次第ゝ世言のる成今ゝ間そゝ云ゝ
著ゝきは
問云ラッリスマンゝ日本ゝ為れる間彼ゝ無そゝ
日本の為今書ある成為れるやみ也ゝそレサノフ
ゝも無ゝ論ゝ彼ゝふ地ゝ有る日本の

海濱ゝ来ゝや我邦ゝ為ゝ係屋形人のゝ為ゝ
凡て宮ゝ人の入る成無て格ゝ為ゝ宮ゝ船ゝ
日本海濱ゝ来ゝ為ゝ人と捕生産国獄ゝ為ゝ
慢事ゝは日本の國法ゝ事成レサノフゝも為ゝ
ゝと字為てラッリスマン及レサノフの日本ゝ来て此ゝ為る
日本ゝ法のるゝ部ゝ為ゝ移勝(コレヤキ)ゝ為ゝ為ゝ
彼ゝ日本人ゝ為ゝ係屋形人と云ゝ為ゝ
彼ゝ為ゝ為ゝ日本の港ゝ入ゝ為ゝ
ゝ豈日本の近海ゝ為て危難ゝ為る船と云ゝ
海濱ゝ為る事成格ゝ為ゝ為ゝ為ゝ

四人といえども危難に遇て海の人を救助する
ものと知るべしや予が船食料乏しきに
以て日本の海岸に船をよせ
エトロフまで運送せし日本の官人予を出戦
意を表して アワレベツまで送りて
いそぎ帰るべしと遊民に遇ひアワレベツより船を
回してクナシリまで日本人に会ふ逆風にて
事なしと先ず船中を一巡し求めんと欲し
て彼に示すに日本人も已に帰るべしと
云ふ彼もエトロフまで日本人を尋ねて
クナシリまで

捕されるまでの事成詳に作り
世界事成作て知るべきなり
出船する船のて漁村に出て
歌をうたふ彼に問て你は会料に人之
ても伊東に針路と問けるや
為に地図すて書
示せり
世界の間も元用の年 那馬加 デイイチ ルカ 諸尼里亜人 アンケリヤ
年の風俗成る船と出て
何年に帰や幾何日数して今成
捕されるや出や彼ら

出来りしと云ふ甘四磅弾砲の大さ海軍の備なる
聞しに其亭甘四の亭に止白(ヘ)剛にある城堡也成の
真数オホーツカ葛摸沙都加の湊及ひ亜墨利加の
小西洋にある舟船并ペテルハウルスの港にある官船まて
の事を語しけるに其数を定めて渡せしと
後遍クリルの人の便言を聞きて其数合しけるも猶よ
手ら不幸なりき 拙者此時魯西亜
此月も夜も序を良き食事をなし酒肉まても
喫し毎夜て牢へ返りし
次の日に至て昨夜の如くなし但し日本人なしに衆成

情なの心まありしと見えて衆来りて湯を与へて牢
屋の様なるまて衆来の襦袢成洗濯もしむ
和国とちかひし所は只て夜衆来の襦袢をと
油なとしもなし 此国にて彼方へ右の様に砂魚油を加へて洗濯成 洗濯き世へ入れ
しく世話なり数々洗濯をも数々を程て大き
快く気を潔しまてとなれり
又テイヤナといふ蓋の越ぬる衣服成をまへしてあるまへ出
衆来り彼に浸て襦袢をと与へまて桶に洗をとこはし
衆来り浴せしむ
此後洗湯の銅の大釜と鉢とをまて衆艦代て出成

鋼で水を温むることの〻多く形容する濁り濁り
しかるに予が患難の中を生て居ると称し
とゝひ居るかゝる穢八人世を濁りて汚穢
沒し海よりなほ甚しく卒一百人すなわち砂漠
金色の形容の濁り方の濁揚よりも濁り方
又て甚敷しく極も此等卒は悪感を抱
しかも濁り方又日本人他の亜細亜人と異て
キリスを信ずる者を侮ることを
世を侮ること毎度と云ふ事を云へり
四年前横浜宣教師共の来行ふ人すなわち
ホーシトフラサガリンを作る移牌（こしやき）
我国のエトロフ及びクナシリ島に生る銅板
もて作る事
第八月三十日 七月晦日 の例の如く多忙と事行ふ
いそがる者あり甚態度を別に我国の如くも
あるとなるを多くの場合に腸を出すあり
世人色彩彼等兄弟ふ多くの人にて仏法を
説教しと彼等同胞の何のあるを我国の如く
不幸を生ずるもあるを思ひ出して我国を悔むと
云へり

人民番面事務モールを以て通の出張しめ
モールを以て金を送て金を受てナポレオンの金借のもの
云へ況〳〵ワシリイミハイロウメチも亦之を以て
之を受ける

千八百六年第十月十二日（文化三年九月一日）俄羅斯軍艦の
次将シユリ舶の船長ホーシトフ俄羅斯のアレキ
サンデル第一帝の臣下として サカリン（地名）蝦夷の沿岸に
出張し其士人並アニワ港（カラフトの海湾）西側
諸村を焼き光を失ひ銀のメダイレ及び
ウラヂミルカルデの記章を授ける北の徴なり

こゝを以て俄羅斯国の海軍及び兵隊
なるは此士人を以て俄羅斯の臣属なるを示す
徴なり銀のメダイレ（銀の徴章）は俄羅斯の臣属なるを示す
徴なり（軍功あるものに帝より授ける
徴章なり）又ウラヂミルカルデとは帝位を
のぞみ撰び国を立てる者なり
其国を立て力を尽す其国盟のため
と云明時人民を義會と称す
国を立て兵器を造れり記章
銀もみな種の差別あり
カルデハリツテルを異にする
ものの形
フレガ（撰ぶ的の種類なり）
ホーシトフ印

船長コイテトント（ナカ）官名

又日本人ニて諸事を綿密ニ穿鑿し其物の形ちを
詳悉ニ申して少しも過失ある時ハ重き罰ニ處せらる
而して政府ともにて日本人の企てる他邦の人を已ゝ
從の如し思ひ此ホーシトフの書を術として ホーシトフク
乱妨ニて魯西亜帝王の命を受けし趣ニて彼等か自
まて云立ニ付日本地を掠奪せんとの計なりと思ひ慮し
此事をも兼て以て爲す所なり 彼等を
安んし置んことを暫く思惟して聴きる所なり 彼等か
命ひしホーシトフの事を畢竟一口ニ云へはて思慮なき
無法の者ニして他邦の人民をも魯西亜ニ屈せんと

計る所ニて威力を振ひて彼野人ニ我帝王の像ある
メデイレを示し已ニ高船を魯西亜の官船と称する
ところなりとし思惟して又且天下ニ広大富饒の小人
ある様魯西亜ニ属して僅の其地をも奪ひ取んと建
の人数を送りて村落を乱妨ニ略奪し向ひ大國の耻
辱を招くる所あさんや又何をもて帝王の首像ある
メダイレを異き商船の者ニ與へ給ひしをもんや
其金子メダイレの用法をも知らさる所をも不存ニて
金子とも實ニ屈辱の甚しき所の丸ニて我国ニ於し
メダイレをも無く他国ニ與へし事なきて法あるニ付て

長崎と所謂出島なるものあり彼地の悪事成敗の品
々を写真と写し彫刻仕徳成作き美を尽す事成
標出るる者多し ホーシトフ ウツン北京宮ふとうさの
事成を抜くるを理あるんや 彼人の日本の船
を撰ぶ ホリル 船名山を尋ぬ 日本
帝宮の御宮なれる出来 御宮 和を移成
客人や若し長成信用を尽んハ速に家を成船
為し 家を為を成の成 なし 品物つ
実事 別れて世間を言成 信を成 海
印を為ある湖海の成 もとも 強るん 人 像 彫刻

の者家に於て日本人の不仁なる成恨を
こそ 解き 信用を成 彼 人 船 して 長成
解き 信用 成 為 成 為 成 為 成 為 成
と成て 世実 成 まさ ホーシトフ 品
解と 解き メダイ 彼 不 出 像 ニコラー
サントレ ホーシトフ 同人 成 問 手 て
為 フレガ 船 品 船 成 船 成 船
為 ホーシトフ ウラチミルオルテ の
為 事 成 後 不 ホー 又 ウラチミルオルテ の
記 成 信 組 行 為 組 と 為 て 詳
成 為 成 為 成 為 成 為 成 為 成 為 成 為 成 為 成

ニ三所モ書ルヽ只蕃成常モ人ニ成感ひてあり又
云ウラチミルオルニの翁と世ル事と係ル所家
の祖なりては恐る自ら用ゆる能ハザル所
銀のメダイレ宝印ある之を士ル者所ある之を世ル
所者所ある之を世ル仰人ル之を思ひて美和ル俗
之者ある之を佩ル事成ル所ホーシトフも宮て
メダイレと思ひる之ある之を彼を亜墨利加商
船の所有となりてホーシトフと称ル ニコラ サントレイウ
と之を商船の業を為ル所平人の所名ある之を
所ル所平りめ

翌ル年九月一日 横浜 例の如く我が成家所ル俗生ル此
日ル之を降ル所ハ人ハ家を之を所ル此
場ル之を所ル所ある之を所ル所ホーシトフ
の之とメダイレの所を問ル人ハ家ル之
彼ま之撫ル 懐 ハメル 章 シルシ を出して何の所ル所ル之を宮
平ル之て宮船の懐章ある之を宮所ある之を所ル
船の懐章ある之を所ル自ら撫ル之を所ル之を
平ル之を所ル自ら和ル所ル船ル之を宮船と為ル
と成ル人と書ル之を保撫ル之を所ル船ル之を宮船ル之を所ル
之を宮人平ル之を成ル之を所ル之を所ル

二ツの幟を立る共に官より出し置るゝものにして互に敵なる
と義争まで及ぶ時に用ひて平生交易するには用ひざる
ものなるにや
日本人のおもふには軍艦も交易船も同じものと思ひ
且彼の外国との交易も只和蘭支那船
踏鋳のみ法ありて正貨の交易を官に置有り
無ひ其国の事情に暗きもの也
予爰に於て欧羅巴まで軍艦まで交易船とたゞ云る
ものと彼問ホーヒトフに仰有に欧羅巴より遠き日本
海濱に軍艦の幟を掲げ来るや 予兼てホーヒトフが

申る所誰と謂に知るゝもの有しか此度来りし不自由一失
有様と軍艦と有て時のこと有るも共に軍艦の
ものと云して国の家の訴し有て用いる事
能はざるものなれは彼の軍艦幟を掲る大小国の家を以
以前に知る所は係る欧羅巴の家より掲る幟を
許しなきや其の用もなきものに餘分にして所の事を以
其し家の旗を立しめ置り
蘭指ては幟を立て常に ホーヒトフ
時出入の庸として家の旗を立しめ日本海濱に来りし時に二艘の幟を
出しして甲の幟を立て日本人
交易を出すんと欲せは甲の幟を出し乙の幟を
その庸と立てし時のしも幟を コロワニ
二十五艘にて参る

又日本人まつり二つの小き銅板を持出せり長さ五我
あらエトロフとクナシリとふ岩にてこれをエトロフ
のそなたなる日本の者人を無くクナシリのそなる人
の住居するこれ村を岩にてこれを銅板にて羅甸
語と俄羅斯語とを彫たり

俄羅斯帝　テイヤナ船　暦数千八百十一年

とゝかやう北方にて海岸を寧海にそなる人の
住居するもとを住きこゝもせを必ず板を出し
来るに人を出してこれを銅板のみを彼
銅板のみを彼に問ふ

我船此海の義を金人に捕へ一人の士族にて
乗船の者ども一人を捕へ彼国の人にて
此者日本人を捕きたりし彼国の人を彼
問ふは予此義彼者に問ふ彼国板のみを
来る和蘭人より聞きて改変巴人に引たてき
銅板を彼方出て来て長山彼已よりの国の者
属せんと彼者の為と北方にて世にて為
予為て改変巴人の仕事を用ることをよみを
問て国ことを言まつと彼とも予ら彼信用
とけるを拵るよりき此るをホーシトフの書メタイし

銅板のるまて多のかをと書るし世ゆゑ伊のめし次第
なき事ともして或は偽造紙及び西洋巴字船の
数漢の数字の事まて示し書しかきふ悔ひ
るて字のよ偽り体しぬ
世者者府まて体ひし貪ものしは麻のゆまて薬
五年お知るるもとるるこう世ゆ五年偽しるは
のるれ数字の所よ何ひよも明事と思ま長ひ刑
シトフの西洋新聞も日本人ま解しこ乃ヒ
ともしえしひ思ふまもホーシトフら吟者のめし思
えまら解しは終まま死刑よあらんうみまるも

脳して苦しきは清国とまあ所きう方もあは
無ふ出ん方ふのよ多と船の御ま紙も此ら時
してあんまのまの人ら字ゆ人ふ頂後ま
事解まひ字和まふよ者なう悔ふきまふ
おとるる時ふ出ま書して逃生んと年発国ま守
護の人多し清ままて之ゆの人群集して事紙とう
国ら幸かして面ひまる和ふ人ふ国ふ紙
番しとも思ふ人ふ字ふ御年お黒ふ品此ふ薬
ふのよ字年よ和ふまふん小ふ
ふ為きふと五よ和見ふ

クリル人の偽言の事

二ツを捨て例のめ〻宇内紙を直る者人医を通事
すりモールの偽を捨て二の偽を外に成間敷こと
時はアレキセイ手ゟ宇内の者の内る様なる様〻様るが
手を伺〻解る日本人を見届ゟ伊勢人手より向け
たき紙の内〻手紙の向を知〻ゟ見て
隙を伺ひ伊勢人を殺して紙を奪ふ直ち
立て世上を立ち西ひ日本人の通る様結て
取上げ見れば紙を考ときに成る鉄砲と入きて
成る射て殺けるヘレブニコフの主あ〻二成偽む

み者接ぶ都加のイスフラウニキ然ラマキレ然アレキセイ
クリル人ともふ国ゟヤとの〻あ〻手紙の文成
毎年為ふよヘレブニコフの書ゟ知こ成る日は
宮て来まの多のゟ拘るあ〻ゟ去れとも
ラマキレとゟえる者ゟ手賞て呼ふ者ゟ
ヘレブニコフの〻紙を失ふ物〻き事あり
為ひ知ゟ宇ゟアレキセイ復手ゟ宇は来る
事ゟ〻手紙ゟ宮ヘレブニコフ来る者〻〻先の
書ゟ〻解ゟ者の〻ゟと彼云て見ゟ宮
ゟ成る人き事形ゟと手ゟ成

ゆえ[illegible]ひ出ス此ヒールヨリ使ヘ[illegible]
彼ら世ニ成角セラレテ[illegible]ラマキンとその日あり
よて[illegible]あるひ日本人ヨリ何の[illegible]
第九月四日[illegible]
此時モ[illegible]
聚り[illegible]
家ヨリ彼アレキセイより生ずる事成事ヨリ[illegible]
アレキセイ[illegible]
何者ヨリ[illegible]
彼ら同使の者共生ずるは[illegible]

イスプラウニキ船ラマキンより[illegible]
あり此方の村々成何ひ奪ひ[illegible]
日本人[illegible]何の時ヨリ[illegible]
[illegible]年ペテルハウルス港より七艘の船と出し
三艘をエトロフ向ひ四艘を松前へ何も[illegible]
シトフのゆき[illegible]
陸々[illegible]
と迷へ[illegible]日本人を欺き[illegible]
[illegible]日本人免し[illegible]
人と計[illegible]アレキセイ[illegible]

ヲ訪き聚ひしに其さはらマキン為せしと云
事なるべし偽言なれども我日本人を為ようと
後ろ〳〵人を出すとなり

予クリル人の昨年歌ひしに云
年侍と考るに我国より日本海湾を
来りしなると合はすと云へるプ
ウルスの港なるあり舟の数を問しに
とき予うさるとクリル人に偽言を
賜はず数合せをせうと
昨年我国より出りて鄙よりクリル人ゴ日本人をキリス

教を導んとして日本の属島を到り〳〵事成ホーシトフの
乱暴并メズイレ及び移牒を日本人の多く海を
事とのクリル人あの偽言と何を日本人を拒て象
を保し終しまの據なかいを後きなるとも
皆数詐を為て後ときも写あり予嘗て日本人を
いる偽言乱を第一日本成就んまを何を借る
二艘の船を以て就ん人やとを言ずホーシトフ
家屋を偽言乱をなるなるとなるる成
偽をしうとものの都をて借二艘の弱船あるも
赤なる家の指揮と思ふ長なる日本人も止白里より

シレトペテルスブルクまで通行して日本の出来事を
伝ねたる事成ども一歩も
あるとまれ形ばかりの為の掠奪
アレキセイの例のごとく彼のクリル人の偽言
たる成事なる故に日本人を後日きせ已らの成
際自ら人を成て平生より考るアレキセイも
已らの為をはんとて必為成後せんの事陽を彼ら
知る彼ら虚をもとも彼をとかふせはまりの事
を怨もの一彼人徳を利国ふ為して外成はんを成
為て知ら為るの成ばは以ての彼を
知る成後ますます外なりと思ひ平アレキセイ
自の成為ますます後日をん事成ばのとも為すの日本
人を為ばるまでつきの例あり為せるアレキ
セイ恐てやきりきを為てアレキセイも実を成
ものを為の為る論と為てくるり
さて本国の為る出ら彼間直接は為加の為人すり
クリル人と日本の属地を造てその村落を何も
とも彼まり中と平為をえて為るを為て為
ひとをみまくるき事を自ら彼人アレキセイ
自為人間ら甘為間接通せきるを知ます。止也

事もなく彼の乞人の村に入る事なし此年米
を取り納めを價を改羅巴の不安を代とし給し
置て引き上げ〳〵に成る事なの不安を報ずる者多くと
七月の間改羅巴に於て亦の方のときに成る他人に
物を奪ひ取ることいふ出来法なく
法といふものを以て国を構へ外に業を成て
乞んとまでふ程業を成る所なく食あるべん時なる成
取て命を取ふ〳〵まして甘信として他の成敗
ひ取ふ改羅巴に於て諸の方人と衆を集て價を異人
を取てまつり〳〵教を受る事之九月に入る

法なく〳〵に成て人の物を奪ふ成ることも人の話さるべて一稿の事とも
奪ふ成ることいふ
日本人方の事成ることに甚だ下宇和島
して出来る実を取ること〳〵多く陽気なき
拝ることなく

日本人参謁我を親む事を彗星現
る事

第九月十日三藩に集まる七人の学を出て命とし
云まて稽古の間あり〳〵七人の日本人出て来る當
て言語拝所加る到り〳〵者まて何の所何の学を長り保ち

出所の所なる下賜は拝領する事なるべし
後年にいたりても家内の知る所なるべ
きなり家にモールを彼方にて
知れりと云はん例のごとく婦人
さん事成られて生きしき
年は彼の国にて使ひし兵隊
なるべし二三の僕は別使
居まうまひしなるべし
光人あり此人をテッリスマンの日本に
彼方にて冊成出して自ら使ふ

時なる神の国を全く何者の国の者なるか
彼方にて使ひ僕は別使
なるべし僕は時々の単語
を集めて思ひ出すと書せり
世間彼光人は年の七十余
ありと云て自ら七十余
定まりぬ
世界の人も家と所
とのことおてなる者
なる時モールを語て
居りぬ
第八月の末結月 紀元モール

ハ先に言ふ如くしかハ看守する者を殺して又モール
ヶ寺のうしろなる廣き板塀をこえて塀を出
られしとぞ
此寺廻りてモール時は寺ヶ寺の様子を見つき様しれ
強くなきて作看守せる者に係留所語俵知れぬ者も
あらんとて直ちに兵をまろぎきしく公衆に出て
其のまゝ兼ねて屋あるに伐待ちしかとも
路なれば行しかば又モール然るに何とも家来伐
大臣の兵を引いて心得なりて中とぞ然るに来て
いかにも右のまゝ来れども其の寺も敵のみなれも

誰かしれし何れも云ふ様此の役を云ふ何れ化金
主張して蓋し其しりそうあんと云う
我ちゝ可の人に又は其に旦某の路す家来ら
説き明らめし事伐いて使して家来を何事も事すや
かし宮中に出尾子沈して心ならは思ひおぼして宮
地より出子の家来のたる則此出替得まて現れて
天よりの云実者をも全てあるはる日某に人を会成天
下に云尾に居て天龍を知る者も有てし此後伐
只ま尾しと思ひ其時云々成らしも出々家の立てゝし
あらと云ひ寺思ひの日某に人も化の亜細亜諸郡洲

人のあく〜彗星は災禍の兆と思ふてあるは
事実者よりなる事もあんとみたる故問ひ
なれを果して日本人のそこに彗星の現ずる事の
不吉なるかを考へる事成むまの兆あると其年一統四年
ホーシトフの星もと流れひしも地震の星
現ずること云へり

シーモノフ星の出るを見る事

第九月十三日 七月の末として不人(ヒトビト)ある
クナシリ島に出て後あるを
見て世界の終りと思ふ

あるを考へるに此と相つる者ふ〜手に外套(ウハキ)袴(ハカマ)
帽子(メリヤス)袋(ハナフキ)鼻拭中あるを見る〜モールヘレフニコフ
其ほかまた多くあるを見る成べし
代をしるるるかは第八月三十一日 嫁(ヨメ)の名 モール
手をもてシカヨフの代よりワシリエフ第九月二十三日
嫁(ヨメ)手をもてマカロフの代よりシカヨフまでの彼
私に出て云ふる事あるシイモノフ日本人の
粗忽にて二間の小屋をもてる事なる
船中にて櫓を登るを知らい人数の所の人
み其よりの小屋の間をなして 鉦(ボタル)鉦(ボタル)孔

申し結び来りし
日本人の女房俗称に典て
あるを乳母の名きゝ
日本人の俗称に心を用ひ細密なる事
俗語にまさるよりなし況の
俗語をもつかるに有り
と雖も鯨(サメ)の皮なりに無えに
出来しゝ
て付と云しよりの俗語
のゝ所に俗語を
少々を加へ要用の
為に
秘蔵して
元年の間を見ちい
為に
出来るの同心の
とて
用ゝ
無りの
箱館と云て
第九月二十二日晴

シイモノフの属一般
日本人
日本の風を
ヒカヨフまき
松前の色
靴を送れり
のゝ方人

[illegible]
[illegible]
[illegible]

浜ヘ
我等已上手ハ仕寄船の宇内ヘ上ルは勉めて
出ル事なれ共一口ハ陸地ヘ上ル馬ハ乗ル事
なれ共ハ無ものなれ共ハ其の縄を出
て草帯ヲ挿ミ自分ヲ出ル事なれ共
遠所村ヘ行ル列ハ陸地ヘ出ル
筒船を繋ル海岸ヘ引ル
彼方ハ山ヘ上ル所ハ甲ハ其ハ
海岸ヘ繋船の入ル所ハ
して海門ヘ行ル

此度の海の三ツ時の土塁を築て出ル三拝の
小手ハ朝鮮ハ車を載ル其ハ
砲台の筒と言ハ土塁の基ハ大砲
ハ一貫ハ五百匁ハ夏ハ百匁ハ
又ハ橋の上ル義ハ蓋ハ刻めき大砲を車
ニ載ルのヲ為ハ時ハ壊ル
此橋の三ツのヲ
我等ハ此三ツの所を通リ
其所ハ北條氏康ハ隠ル
其度ハ

度四つ〻あり〻此上にあらんかと思へども是迄
も他ありとて為る事成為るまいと云成迄
為きやみ藤迄なる事なれば何ぞ
大藤の人形にて成さるゝ事成為
さるゝ間迄なる迄事人なれば多〻有の国こゝ
成力と書いたきれ為て此事成為るみ原ふ
らのとそこみてシイモノフラ村る少力のこふして絶て彼る
敵の為〻なるのみにやこゝ成ば何人なりとも来き
果こゝ
橋中まで食物なるものの通て日のこゝなる

屋は山伏にて家にせりさて此橋中人民其多の〻
村為て数多の〻其内人間孫あり海原成為る成
業としるのおきる国風にて蕨蔓と称て
日本人多る三世代なる蕨蔓成明日俄蕨形人の
蔬菜と用ふるの〻にて是屋と云〻飯と食
ふる村落る代用の蕨国ふと落成為る成蕨蔓
と云〻為きて食ふ
同月十九日 我八月廿四日 松前を去る事廿の村上
ヤウ也成能こゝ中三る云こゝ松前を去り不
る国事あんこ時のまて此能

[illegible]

日本人[illegible]鼻[illegible]と[illegible]る布[illegible]

[illegible]人[illegible]

[illegible]我[illegible]年[illegible]

[illegible]

[illegible]

〳〵たかき山のうへに出てゝ山のうへ
にいたりて長谷の堂の西の方にまゐりて
礼堂の柵のもとにおるゝ廿柵の間よりのぞきて
見おろすに道にすゝ〳〵同じくまゐるみ
ちはたゞ一すぢなる柵のうちに門あり廿門の
前に四人の童子とをり
へしフニコフ の三人の童子宇合なりアレキセイと云まのとゝ
別の宇合なりのぞきて〳〵

遣唐日本紀事巻之三下畢